

図書室だより

尼崎市立難波小学校
図書室
令和4年 5月号

ひとりひとりのいのちをだいじにする世界であってほしい！

今も、ロシアとウクライナの戦争は続いています。世界には、紛争が続いている地域がほかにもあります。「ひとりひとりのいのちをだいじにする世界であってほしい！」子どもたちにその感覚だけは伝えていかないと！！と思います。

6年生の修学旅行が間近に迫ってきました。行き先は広島です。



今、玄関には、全校生が折った青と白の千羽鶴が飾ってあります。「世界平和を祈って」というメッセージもついています。たとえば、小さな小さな力でも、思いを届けようと、図書室でも鶴を折ることにしました。6年生の図書委員が中心です。6年生が集まって折っていると、5年生図書委員が、「私たちも折りたい！」と折りはじめます。そして、図書室に来ていた人たちも、「やるやる！」と、25分休みは、毎日のように鶴折りグループができていました。どの学年も来ていましたよ。異学年の交流もありほほえましい光景でした。私も折ろうかなと思って、折り始めると、「センセ、はじめはさんかくからやで。」「あっ、そうか！長い間折ってないから、忘れてるわ！」ということも…。「なんでつる折るん？」「私」原爆で放射線を浴びて病気になるようになった佐々木禎子さんが、病室ですつとつるを折っててん…。「このつるどうするん？」「私」6年生に広島へ持って行ってもらうねん。」「原爆でいっぱい死んだから？」「私」「そうそう。」つい先日も、2人の2年生女子が、「つる、折りたいんやけど!!!」とわざわざ来てくれました。その気持ちがとてもうれしいです。「平和になってほしいもんな。」とそうじに来ていた2年生の男の子も仲間入りです。今は、6年生女子が、一羽一羽、糸でつないでくれているそうです。こんな子どもたちの純粋な気持ちをしっかりと受けとめて、その心を大事に大事にしていきたいなあと思いました。

一方、6年生とは、『はだしのゲン』はピカドンをわすれない』『伸ちゃんのさんりんしゃ』『禎子の千羽鶴』をいっしょに読みました。とても集中して聞いてくれているのを肌で感じながら読みます。読み終わったら、「これ、本当の話？」と質問する人が必ずいます。どの話も、あまりに悲惨すぎて、本当のこととは、信じにくいのだと思います。『伸ちゃんのさんりんしゃ』を読んだ時には、「この三輪車、平和記念資料館に展示さ



れています。」と言うと、「8時15分で止まっている時計もあるんやろ？」「真っ黒なお弁当も」「階段に残ってるかげとか…」5年生の時に『たずねびと』で学習したということもあり、6年生はよく知っています。

日本は、世界で唯一の戦争被爆国（世界でたったひとつの、戦争で原爆の被害を受けた国）です。ですから、核兵器を使ったらどういうことになるのかを一番よく知っているのは日本なのです。「百聞は一見にしかず。(何度も聞くより、一回見る方がよくわかること。）」と言います。6年生のみなさんは、被爆者の遺物を見て、またそれと同じ場所に立つことで、何を感じるのでしょうか？原爆の悲惨さ、残虐さを心のどこかにいつまでもおさめておけるような修学旅行になればいいなと思っています。



図書室とさらに仲良くなれたかな？

どの学年の教科書にも『本はともだち』という単元があります。

1年生は、小学校の図書室との出会い。小走り気味の人が何人かいて、ワクワク感が伝わってきました。

2年生は、「図書館たんけん」3人グループで指定された本をさがしにいきます。宝ものさがし感覚です。「あった、あった!!!」満面の笑みで本を見せてくれます。



3年生は、「図書館たんていだん」難波小学校の図書室マップを書きます。図書の時間、2時間使いましたが、「もっと時間ほしいです！」と意欲的な3年生です。

4年生は、「図書の分類を知ろう」3人グループでいろいろな分類の本をさがして、ワークシートに記入していきます。「ゼーンぶ、みつけた！」と満足そうな顔が並んでいました。

5年生は、「図書館をつかいこなそう」自分の好きなものをテーマにし、いろいろな分類の本から調べていきます。学校の図書室だけでは、本が足りない人もいるので、公共図書館からも何冊か借りてきました。自分の好きなことを調べるのですから、楽しそうです。「これ、たのしいな〜」というつぶやきも聞かれました。やはり、公共図書館は、本が充実しています。これをきっかけに公共図書館にも足を運ぶ人がふえるといいですね。

図書ボランティアさんありがとうございます！



図書室前の壁面に、急にアジサイの花がたくさん咲き、カエルがとびまわっています!!!にぎやかです。図書ボランティアさんがはってくださいました。掲示物のほか、新しく買った本のカバー、補修テープ、ハンコなどの作業や、本の修理もしてくださいます。本さがしゲームをやっていた2年生、ボランティアさんに「おしえて〜」と言いにいったそうですよ。ほほえましい光景です。



2022年、課題図書、入りました!

きい ほん 気に入った本があれば、読書感想文にちょうせんしてみてください!

<1,2年生>



つくしちゃんとおねえちゃん

気が強く優等生の小学4年生の姉と、マイペースで不器用な小学2年生の妹つくし。妹の視点で日常をつづった5編の物語。

いとうみく 作
丹地陽子 絵
福音館書店
1,320円



ばあばにえがおをとどけてあげる

「大好きなばあばを笑顔にしたい!」と、まさに「よろこび」を探しにでかけます。おばあちゃんと孫娘のやさしくあたたかな物語。

コーリン・アーヴェリス ぶん
イザベル・フォラス 絵
まつかわまゆみ やく
評論社
1,650円



すうかくでせかいをみるの

うちのかぞくには、それぞれ好きなことがある。好きなことがあるっていいな...「好き」を通して、世界の見方を見つける絵本。

ミゲル・タンコ 作
福本友美子 訳
ほるぷ出版
1,760円



おすしやさんにいらっしやい! 生きものが食べものになるまで

魚を釣り上げてからお寿司になるまでを動画のような連続性で描き、私たちが命をいただいていることを伝える写真絵本。

おかだだいすけ 文
遠藤宏 写真
岩崎書店
1,760円

<3,4年生>



みんなのためいき図鑑

なぜ、ヒトはためいきをつくのだろう。「ためいき図鑑」をつくることになったぼくらの班は問題山づみ。生きていくのって大変.....

村上しいこ 作
中田いくみ 絵
童心社
1,320円



チョコレートタッチ

チョコレートが大好きなジョン。ある日、ひろった銀貨でチョコレートを買って食べるとチョコレート病に。ジョンはどうなるの!?

パトリック・スキーン・キャトリング 作
佐藤淑子 訳
伊津野果地 絵
文研出版
1,430円



111本の木

SDGsの目標「陸の豊かさを守ろう」「ジェンダー平等を実現しよう」を目指した、インドの小さな村の活動を描くノンフィクション。

リナ・シン文
マリアヌ・フェラー 絵
こだまともこ 訳
光村教育図書
1,540円



この世界からサイがいなくなってしまう: アフリカでサイを守る人たち

サイが絶滅するかもしれない...。南アフリカの地で、サイをねらう密猟者と、守る人たちとのたたかいを、NHKの記者が追う!

味田村太郎 文
学研プラス
1,540円

<5,6年生>



りんごの木を植えて

大好きなおじいちゃん。病気と向き合いながら、毎日を豊かに過ごしている。自分らしく生きるおじいちゃんってかっこいい。

大谷美和子 作
白石ゆか 絵
ポプラ社
1,650円



風の神送れよ

コロナ退散の祈りもこめて、僕らはコトの神を谷へ送る。子どもたちが無病を願う伝統行事と懸命に向き合う姿を描く成長の物語。

熊谷千世子 作
くまおり純 絵
小峰書店
1,650円



ぼくの弱虫をなおすには

ぼくとフリータは、夏休みのあいだにこわいものを克服して強くなることにした。ところが...? がんばる子どもたちの前向きな物語。

K・L・ゴーイング 作
久保陽子 訳
早川世詩男 絵
徳間書店
1,760円



捨てないパン屋の挑戦: しあわせのレシピ

大量のパンの廃棄に悩み、「一個も捨てない」ために奮闘するパン職人の田村さん。食品ロスなき未来への知恵と希望を描く。

井出留美 著
あかね書房
1,430円

<https://www.dokusyokansoubun.jp> > books

課題図書 - 青少年読書感想文全国コンクール

